



多文化共生時代の福祉を考える

こころの家族

No.354

2023年11・12月



共生福祉財団95周年式典にて。
前列中央に尹大統領夫妻（韓国木浦）

**尹大統領、
共生園訪問**
(詳報・2面)

利用者さん

福祉施設を利用する人を「利用者」そしてその家族も「利用者さん」と呼ぶ場合がある。「ご利用者さんのご家族様」と、優しく親切な声で一段へりくだった姿勢で話している。丁寧で感じがいい。

国の方針では介護保険事業はサービス業と位置づけられているらしい。サービスとはサポートであり、上から下へではなく、下から何かを支援することではないでしょうか。だが、長い習慣から利用者さんは、親が世話になっている施設には少々のご不満があっても言わない。または我慢する場面が多いような気がする。

介護とは高齢者の身体と心と生活習慣を理解することから始まる。一人の大切な命を守り、安心して平安な気持ちで過ごしていただくためにはご本人、家族、職員とのコミュニケーションが大切だが、ご家族の場合は不満があっても我慢するのではないのでしょうか。

私、理事長としては、受付の職員に、出来れば親に会って帰るご家族様の様子を見ながら「今日お母さんはどうでした？」と聞いてもらえば感じた事を自然に話しやすくなると思います。意見は介護サービスの向上につながります。面会に来ていただいたご家族様に「今日のお父さん、お母さんはいかがでしたか？」と伺う。そしてその意見を介護サービスに生かしたい。

長く生きる福祉から楽しく長く生きる文化福祉を目指して頑張ってきたが、コロナ禍の3年、介護サービスの一部が出来なくなつた。低下したサービスを回復させる意味からも、受付から、一言「今日のお父さんお母さんはいかがですか」と伺う。そしてご家族様の一言をサービス改善につなげる。福祉は大げさなものではない。素朴な願いを叶えるようサポートすることではないでしょうか。

社会福祉法人こころの家族
尹基 (Tauchi Motoi)

「田内千鶴子の愛と献身は国境を越えた」

このころの家族と姉妹関係にある韓国・木浦市の共生園で10月13日、共生福祉財団設立95周年の記念式典が開かれました。日韓両国の政府関係者、地元の首長や日韓で縁の深い地域の行政幹部、活動を支援してきた民間の人たちなど、参加者は600人以上に上りました。尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領と金建希（キム・ゴンヒ）夫人も参列し、日本の植民地統治下の1928年に孤児院を始めた尹致浩伝道師、それを引き継いで1968年に56歳で死去するまで3千人余の孤児を育て上げた日本人女性、田内千鶴子（韓国名・尹鶴子）の足跡をしのび、今後とも日韓友好や福祉面での交流に弾みをつけていくことを誓いました。



尹大統領と子どもたち

共生福祉財団設立95周年記念式典 大統領夫妻が参列

木浦共生園に韓国大統領が訪れるのは長い歴史上、初めてのことです。この間、植民地統治、解放（終戦）、朝鮮戦争、韓国近代化の過程を経て、共生福祉財団は今日まで児童福祉事業や障害者福祉事業で日韓の社会福祉の発展に力を尽くしてきました。

尹大統領はその労苦を労い、感謝の意を表しました。「田内千鶴子の愛と献身は、国境を越えて社会的弱者への福祉発展へ大きく貢献した」と語り、「韓国政府としても弱者福祉を実現するために、さらに努力していく」と強調しました。

日本の岸田文雄首相も祝辞を寄せ、衛藤征士郎・衆議院議員が代読しました。「共生園と田内千鶴子さんは、人と人との交流の美しさ、力強さを我々に教えてくれる」と讃え



日本から参加した皆さん

たうえで、「この記念すべき日に、共生園のような先人の大きな足跡に改めて思いを馳せ、日韓がパートナーとして力を合わせて新しい時代を切り開くべく、私自身、これまで以上に努力していきたい」と日韓関係へ弾みをつける意欲を示しました。

これに先立ち開会の挨拶をした尹基・共生福祉財団会長（このころの家族理事長）は、「日本の女性だった尹鶴子に、この土地に住まわせていただき、困難な時にも助けていただき、亡くなった時、市民葬までしていただいた木浦市民の精神が今日の共生園をつくりました」と感謝の気持ちを表しました。

式典には韓国社会福祉協議会や在韓日本大使館、日本航空、地元の道知事、市長、大学総長をはじめ、このころの家族本部や「故郷の家」がある大阪府堺市、京都市、田内千鶴子の出身地の高知市代表、このころの家族評議員、理事、長く法人を支援してきた方々も日本から訪れました。また、日本各地の「故郷の家」の職員は関連施設も訪ね海外研修として参加しました。

共生福祉財団、そして日本各地の施設が長年、地域に支援され、発展し続けた原点は木浦市民でした。在日韓国人やキリスト教関係をはじめとする人たちが感謝の気持ちを表した「木浦市民、ありがとう」と刻まれた碑が新たに共生園に建立されました。「田内千鶴子生誕111年」を記念して11月1日、感謝碑の除幕式があり、再び日韓の多くの関係者が現地を訪れる予定です。

尹大統領祝辞

共生福祉財団設立95周年をお祝い申し上げます。

尹致浩伝道師から始まったここ共生園を引き継いだ尹鶴子女史は、愛と献身で4000人の孤児を育てました。日本出身の尹鶴子は、国境を超えて我が子のように育てた「韓国孤児のオモニ」でした。

つらく貧しい激動の歳月のなかでも、尹鶴子女史の愛は、韓日両国国民の心を動かしました。1968年10月、女史が逝去された後も、尹基・共生福祉財団会長を中心に、木浦や日本各地で孤児と障害者、在日同胞の世話を主導し、女史の遺志を継ぐために努力してきました。今後も共生園が、私たちの社会から疎外されている人たちを守るために先頭に立つのはもちろん、韓日両国友情の象徴として、さらに発展することを願います。

政府もやはり社会的弱者をさらに厚く支援する弱者福祉を実現していきます。一人の国民も取り残されないよう、さらに努力します。また、共生福祉財団が推進している「国連孤児の日」の制定と「韓日友好村」プロジェクトも実を結ぶよう願っています。

共生福祉財団95周年にあたり、私たちすべてが設立者である尹致浩伝道師、尹鶴子女史と共に温かい心でこの場にいることは誠に特別なことだと思います。

今日午前、龍山で日韓・韓日親善協会の代表団と会いましたが、この場でも共生園の話が出ました。私は彼らに対し、今年で金大中・小渕恵三両首脳共同宣言から25周年を経たが、この共生園の活動を見ながら木浦で育った金大中大統領と、やはりよくご存じの小渕総理がいたからこそ、二人の共同宣言ができたのではないかとお話ししました。

金・小渕共同宣言は、まさにこの共生園から出発したと私は考えています。

改めてお祝い申し上げます。(要旨)

岸田首相挨拶 (衛藤征士郎・衆議院議員代読)

木浦共生園財団設立95周年、おめでとうございます。

共生園は、日韓国民間での温かい交流の象徴のような場所です。言葉や文化は違えど、お互いを信頼し合えば強い絆が生まれ、引き継がれ、語り継がれていく。共生園と田内千鶴子さんは、そのような人と人との交流の美しさ、力強さを我々に教えてくれます。

故・小渕恵三総理大臣も共生園に強い感銘を受けた一人であります。共生園には小渕総理大臣が寄贈された梅の木が植えられておりまして、千鶴子総理大臣夫人も訪問されたことがあります。

日韓両国は、国際社会における様々な課題への対応にパートナーとして協力していくべき重要な隣国同士です。日韓関係の強化に力を入れる強い思いを共有する尹錫悦大統領閣下とは本年3月以降、すでに6回にわたり会談し、深い信頼関係を築くことができました。

今日というこの記念すべき日に、共生園のような先人の大きな足跡に改めて思いを馳せ、日韓がパートナーとして、力を合わせて新しい時代を切り開くべく、私自身、これまで以上に努力をしていきたいと思っております。(要旨)

尹基・共生福祉財団会長挨拶

先ほど、大統領は記念館に入ってくださいメッセージをいただきました。「愛と献身の共生園は韓日両国の友情の象徴だ」と、ありがとうございます。

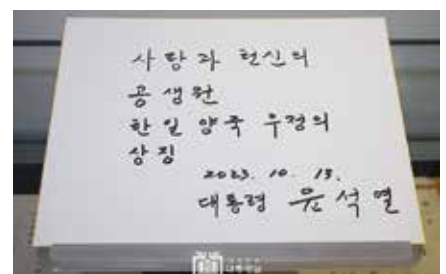
共生園はわが韓国の近代史と同様、日帝時代は苦痛を受け、解放の喜びもあり、朝鮮戦争の時は犠牲もありました。それでも生き抜く大韓民国の建設と共に歩んできました。

今日このように共生園があるのは、尹致浩伝道師、日本人の尹鶴子の愛と犠牲があったことだと思いますが、私が大統領がいらっしゃるこの席でお話したいのは、日本の女性だった尹鶴子に、この土地に住まわせていただき困難な時にも助けていただき、亡くなった時、市民葬までしていただいた木浦市民の精神が今日の共生園をつくった。今、この席に大統領をお招きできたという光栄に至ったのではないかと、こう考えています。そんな意味で木浦市長、全羅南道知事、地域の有志の皆様、本当にありがとうございました。

私は今年3月、大統領が東京へいらっしゃったとき、身に余る席に座り、共生園の話、在日同胞の話をご金建希女史から詳しくお聞きして本当に感動しました。

共生園の夢はもうひとつあります。孤児たちに笑顔になってもらおうと、音楽の教師だった母は奉仕をしました。韓国と日本だけでなく、世界の子どもたちに笑顔と希望を届けることができる、そんな国になることができたら素晴らしいと思います。

その意味で今、我が大統領、金女史には、世界のオモニ、アボジになっていただくよう願います。ありがとうございます。(要旨)



職員さん 登場

②③

デイサービス故郷の家・神戸
リーダー

機能訓練指導員

池上友広さん

コロナ禍が始まった3年前の7月に故郷の家・神戸に入職した池上友広さんは、機能訓練士の資格を持つデイサービスリーダーです。柔道整復師の専門学校を15年間務め、介護の世界に飛び込みました。「1人1人のご利用者の尊厳を大切に」をモットーに、コロナ禍で低迷したデイサービスを見事復活させています。



池上さんは1976年神戸市生まれ。大学卒業後、東京で5年間会社勤めをし、「自分の自信になることを作りたい」と、資格取得を目指し生まれ育った神戸に戻り、縁あつて柔道整復師の専門学校に入学。学校での身体についての授業に「初めてのことで、知らなかったことが多すぎて、またその勉強が性に合いません」と、またその勉強が性に合いません。その勉強にのめり込みました。その勤め先で成績優秀だったことから学校卒業後に学校側から教員を勧められその道へ。

「現場」を知りたくて 介護分野に飛び込んだ

教員になってからは、夜間部も含め朝から夜10時までの勤務。学生たちに真摯に必死に向き合っていました。その中で、この指導していることが現場でどう活かされているのか？自身の目で見て体験したいと介護分野への転職を決意。出逢ったのが故郷の家・神戸でした。

入職後すぐに新型コロナウイルス感染症が発生。施設は混乱を極めました。デイサービスも休止を余儀なくされたなか、池上さんは「地域の福祉サービスとして」できることをしたいと、ご利用者の自宅へのお弁当配達や、薬をちゃんと飲んでいるか？の確認のための訪問、病院に一緒に行くなどの活動を始めることを

提案。共に働く職員も賛同してくれ休止期間中、活動を続けました。「松下施設長が現場に任せてくれたことにも感謝でした」と、池上さん。コロナ禍のなかで不幸なこともたくさんありましたが、その都度、誠実に対応してきました。今年5月、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行、デイサービスが再開しました。定員は

30人ですが、当時は10人にも満たないご利用者でした。しかし、ご家族からの口コミや、休止中の活動を認めてくれた人たちが徐々に戻り今年度は25〜26人のご利用者が「故郷の家・神戸」での生活を楽しんでくれています。

池上さんが毎朝心がけていることは、お一人お一人と挨拶をし、何気ない会話をする。一言話をするだけで体

調の変化に気が付くことも。そしてご利用者が何をして欲しいかを察知する目を持つことも大切だと感じています。池上さんは「故郷の家・神戸のデイサービスの良さは、自由に過ごせる家庭の延長線であることだと思います。ご利用者と一緒に日々、デイサービスを作りあげていくことができたうれしいです」と、話しています。

介護予防やリハビリに！

ワンポイント体操

故郷の家 機能訓練士 中橋 学

つまずき防止体操・足首ストレッチ

足部は日常生活で唯一地面につく部位であり、足首の柔軟性がなければ歩行時の負担が膝部・腰部に多くかかってしまい、腰痛・膝痛など身体の不調につながります。また、足首が硬いことで、つまずき可能性も高くなります。今回は足首から先のストレッチ体操をお伝えします。

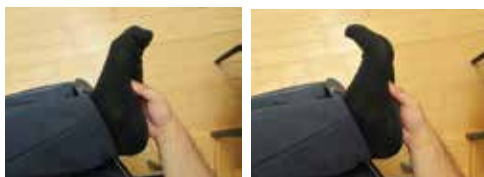
①足先を持ち、足首をゆっくりと（5秒ほどかけて）回すように動かす。右回し・左回し5回ずつ回す。



②足先を持ち足裏を伸ばすように足首を背屈する。左右30秒間伸ばす。



③土踏まずを親指で押さえて指の曲げ伸ばしを行う。曲げ伸ばしの合計20回程度



④足首を90度に固定し、土踏まずを手のひらで軽く叩く。（叩くことにより足の裏の筋肉・アキレス腱が緩みます）30回ほど叩く。



※①から④までを順番に行うことでより効果が出やすくなります。

11月11日に多文化フェスティバル

故郷の家・東京

故郷の家・東京では7周年記念感謝の集い「多文化フェスティバル」を11月11日(土)11時~14時に開催します。利用者さんのご家族やご支援者、地域の皆さんの、多数のご来場をお待ちしています。

..... プログラム

第一部 (11時~) 感謝会

第二部 (12時~)

*模擬店:ピビンバ、チヂミ、焼肉、焼きそば、おでん、チャーシュー(ベトナム料理)、水餃子(中国料理)、モートリンマー(ミャンマー料理)

*食品販売:お餅、韓国のり、チャプチェ、キンパ

*バザー:洋服・雑貨・生活用品等

*カラオケ大会(利用者のみ)



問い合わせ 故郷の家・東京

TEL 03-3644-0555

FAX 03-3644-0556

(担当:吉田)



「塩浜100年の歴史」に耳を傾ける

故郷の家・東京 市民講座

故郷の家・東京では地域の方も参加できる「市民講座」を1階の地域交流スペースで開催しています。

9月30日午後2時~3時は東京大学大学院日本史学研究室の鈴木淳教授を講師に招いて開催されました。テーマは「塩浜の知らなかった歴史を垣間見る」。

故郷の家・東京のある江東区塩浜1丁目にはちょうど100年前に埋め立てられて当時の深川区に編入されました。また、政府米穀倉庫(旧深川政府倉庫)が十数年前まで大きな面積を占めていました。講演はこうした地元・塩浜の100年の歴史を振り返るもの。地域の人たち約30人が集まり、熱心に耳を傾けました。



長芋のキムチ和え

故郷の家 管理栄養士 柴田 智絵

長芋の旬が春と秋の2回あることはご存じですか？今回は11月~12月にかけて収穫される、まさに旬な

秋掘りの長芋で作っていただきたい簡単な一品をご紹介します。

通常、デンプンを多く含む芋類は生食だと消化不良を起こしてしまうことがあります。長芋にはデンプンを分解するジアスターゼが豊富で、それにより生食が可能です。

長芋に含まれる「マンナン」には体内の不要なものを排出する働きがあり、「*1レジスタントスターチ」は腸内の善玉菌のエサとなります。そんな長芋に合わせるのが、乳酸菌たっぷりのキムチです。これぞ「*2シンバイオティクス!!」美味しく食べて、腸内環境を整えましょう。

*1レジスタントスターチ: 体内で消化されないデンプンのこと
冷ましたごはんには、炊き立てご飯の1.6倍のレジスタントスターチが含まれています。

*2シンバイオティクス: 善玉菌とそのエサになる物を同時に摂取すること。



材料

長芋 150g
白菜キムチ 150g
ごま油 小さじ1

作り方

- ①長芋は皮を剥き、ポリ袋に入れ、お好みの大きさになるまでたたく。
- ②ボウルに①の長芋、白菜キムチ、ごま油を入れて和える。
- ③お皿に盛り付ける。(お好みで海苔をのせても美味しいです)

外国人との共生、そして共助へ

インタビュー
水上洋一郎
さん



今回登壇されるのは、この家族評議員の水上洋一郎さん(82)です。法務省の元東京入管局長という「見お堅い経歴ですが、韓国と思いがけなく深い縁があり、かつての役人の立場として葛藤も抱えつつ、「共生」についても深い思いを持ち続けています。

がきっかけでした。1985年春から2年間、法務省入国管理局登録課の課長補佐をしましたが、指紋捺捺拒否運動の最も盛んな時でした。そのなかで知り合いました。

日本生まれの、日本育ちで素性もわかっている若い日コリアンなどに強制的に外国人登録証に指紋を押させるのはあまりに酷だとして、指紋捺捺拒否制度は廃止へ向かうのですが、当初は黒色インクから無色透明のインクに変えるなど運用の改善だけで、押捺拒否を続ける人を告発する旨の通達を自治体に出し、民団などが強く反発したわけですね。

入管OB会誌に寄稿されたコラムにこう書かれています。「近頃は縁という言葉はあまり聞かないが、私と韓国との関係はこの言い方がふさわしいように思う」と。

水上 いくつか、縁や因縁という表現以外には思いつかないことが重なりました。

まずは生い立ちですね。生まれ育ったのは北九州・小倉の下町です、在日韓国人もいました。小中高校まで住み、親しい友達にも在日韓国人がいました。さらに、韓国のことは父母からよく聞いていました。

父母はそれ以前に、韓国と深い縁があったのです。私が生まれるより前、父は韓国で小学校の教師をしていました。最後の教員生活は蔚山(ウルサン)の三同小学校で、そのころ母と結婚。その小学校の卒業生は毎年、同窓会をしていて、私の父も同窓会役員名簿に校長と共に載っています。校長の息子で、やはりこの小学校出身の朴在彦さんという方が、ずいぶん以前のことになりましたが、父のことを便りで教えてくれました。

その後、私が札幌入管局長をしていた1996年の夏、初めて同窓会に出向きました。朴在彦さんに「行きますからよろしく」と手紙を書く、「歓迎します」と返事が来ました。

韓国語など全く話せない、どうしようと思っていたら、韓国民団の幹部をしていた河政男さんが「自分が通訳するから」と連れていってくれました。それから2、3回、ある時は一人で、ある時は妻を連れて出席すると、「特別会員」の称号を与えられ、2006年度版の同窓会名簿に載せていただきました。日本人ただ一人の特別会員です。

指紋捺捺問題に取り組んで

——河政男さんという方のおかげでお客様を通じた交流が生まれたのですね。

水上 これがまた彼とは不思議な縁で、在日コリアンをめぐる指紋捺捺問題

いかということでした。

行き場のない人が数百人も大村収容所にいる。どうするか。岸信介内閣の時、大村に残った人と拿捕された日本人を交換し、大村の人たちを日本国内で放免することにしました。そして、彼らの保証人になって職業の紹介もする、面倒みるという、そういう組織をつくろうと法務省にお鉢が回ってきた。1957年12月に日韓文化協会として設立されました。

名前とは裏腹に、全く「文化」と関係ない。基金、財産が必要ですが、在日の人がお金を出してくれました。まず朴春琴さん、戦前日本の帝国議会で初めて朝鮮人代議士になった人です。彼が屋敷や土地を抵当に入れてお金を捻出し、その財産で始まったのです。そして周りの在日の方たちが寄付をし始めました。

ロッテ創業者の重光武雄さん(本名・辛格浩)も当初から参加していて、私が日韓文化協会の理事長になった時、挨拶

このままではいけない難民・移民問題

——今年出版された共著「入管の解体と移民庁の創設」の中で、役所の縦割り行政を解消して難民・移民問題を総合的に扱う「交流共生庁」の創設を改めて主張されています。

水上 難民認定や外国人との共生という問題は、治安と切り分けないとだめです。今のままの入管では将来の日本の姿は見えてこない。

今年6月に入管法の一部が改正されましたが、二つの問題がごちゃ混ぜになっています。千人、2千人の難民申請のなかには、完全な難民には当たらなくても近い人がいます。仮放免で訴訟しているとか日本人の配偶者がいるとか、日本でも子どもを産んだとか育てているとか、凶悪犯でもない、オーバーステイぐらいしかない、その程度の人には救われなければいけない。人道的配慮だけでなく、労働力として日本に貢献してくれることもある。日本語ができて地域で平和に暮らしている。全員を同じ扱いにははいけません。そういうところの手立てが今のところないのです。

私は、「難民を助ける会」と姉妹関係にある「さぼろと21」の監事もしています。難民など外国人の自立支援をしています。

——以前から、外国人との「共生」の必要性を唱えられています。

水上 共生にもいろいろあります。文化と文化、異なる生活様式同士がそのまま交わらず平行線をたどったとしても、共生は共生でしょう。でもおそらく、今の形が一番良いということはありません。お互い心を通わせ合い、新しいものに変えていかないといけないし、そうでなければ理念や理想は達成できないと思います。単なる共生じゃない、自分も相手も変わらなければいけない。そこで新しい価値を見いだすことができるのだと思います。

例えば介護と福祉の問題は、韓国や中国でも同じ課題に直面しています。高齢化や労働力不足、外国人とどう向き合うか。日本でもうまくいく方法を見つければ、ほかの地域でも役に立つ。つまり共助にも結びつくといえるのではないで

にも行きました。彼が蔚山の父が勤務していた小学校に通っていたことを私はすでに知っていて、昔話を交わしました。その後、私の父の直接の教え子だったことも分かりました。そんな縁もあります。

名前の通りの「文化」の香りがし始めたのは国交正常化後です。保証人などの話はなくなり、韓国から来る留学生や在日朝鮮人大学生への奨学金、また、セミナーのような形で交流をするようになりました。

——すごい話ですね。日韓現代史のまつただ中に。そして協会理事長を終えるころから、このころの家族と関係が築かれていきます。

水上 尹基理事長とソウルの空港で名刺交換した2010年が最初の出会いです。大東文化大学の永野慎一郎先生が、尹さんと同じ木浦の出身ということで、大東文化大と木浦の大学の交流、地域同士の交流を推し進めていました。学問的な交流や市民、公務員の交流に加え、木浦の観光資源を盛り立てる方法を考えようと日韓の交流会がありました。尹基さんも加わっていたその交流会に誘われ、知り合ったのです。その後、評議員の依頼がありました。

——「共生」から「共助」へ、という考えですね。ところで、韓国の大学などでしばしば韓国語で講演されています。語学の勉強に大変熱心だとか。

水上 外国に行く時には、その国の言葉を学び、話すべきだと思っています。入管時代にもフィリピンやベトナムに出張する際、1、2か月前から一生懸命現地の言葉を学びました。会話ぐらい、挨拶ぐらいはできなければと。

タイの書記官の時、3年間、ほぼ毎日大使館にタイ人を招いてタイ語を勉強しました。内政ウオッチャーを任されている以上、勉強しなきゃと思って。現地の大学院のゼミでタイ語で法務省の話をしたこともあります。

韓国語を勉強し始めたのは登録課にいたころから。ラジオ講座などを聴いて、その後、名古屋で札幌でも、現地の韓国語学校に通って勉強し続けています。

続けているといえば、実は妻に誘われて地域の住民センターでダンスもしています。タイ駐在の時、パーティーの席で私ひとり、ぼうつとしていたら、妻に「何かやらないと面白くないでしょう」と言われまして。ワルツ、ルンバ、タンゴ。駅で地下鉄を待つ間、練習でステップを踏んでいたら職員に見られ「やってみましたね」と言われたこともありまして(笑)。

(聞き手・市川速水)

水上洋一郎(みずかみ・よういちろう) 1941年生まれ。東京都目黒区在住。東京大学教養学部中退。埼玉大学政治学修士。1971年法務省入省。在タイ日本大使館一等書記官、内閣官房内閣審議官を経て入国管理局難民認定室長。札幌・名古屋入国管理局長を歴任した後、2000年に東京入国管理局長、2002年に法務省を退職し財団法人日韓文化協会専務理事に。2004年から6年間、同協会理事長。

おどる

堺・大阪・神戸・京都・東京

「故郷の家」各施設のホットな話題をお伝えします

※各施設のブログもご覧ください。QRコードからどうぞ！

秋夕のあとで記念撮影も

9月29日、秋夕(チュソク)の行事を行いました。例年通り、ご先祖様に料理や果物、手作りのソンプジョンをお供えして、入居者様が順番に香を焚き、ご先祖様に手を合わせ、お祈りを捧げていきました。最後に鄭仁淑さんに太鼓踊りを披露して頂き、おごそかに秋夕の行事を終えました。

終了後、普段着ることの少ないチマチョゴリで着飾り、お一人おひとり記念撮影を行いました。

ご先祖様にお祈りを捧げ、皆さん、笑顔で写真を撮られていたのが、とても印象的でした。



京都



また、ボランティア公演では歌や踊りを披露していただき、参加された入居者様、家族様も一緒に歌ったり踊ったり、歌ったりとたいへん盛り上がりました。最後に盆踊り、花火をして、子どもからお年寄りまで夏祭りを存分に楽しみました。

夏祭り、盛り上がりました！
8月18日、故郷の家・京都では毎年恒例の「夏祭り」を行いました。コロナ禍の3年間は密を避けて、入居者様と施設職員で楽しみました。今年、2019年まで実施していた規模に戻し、ボランティアの皆様が、地域の方、入居者の家族様にも、多数参加していただきました。屋台で食べ物を買って、家族皆で食べる様子や子ども達もさまざまなゲームコーナーで楽しむ光景がそこにはありました。毎年恒例のスイカ割りも行い、割れたスイカをカットして皆さんに振舞いました。

堺



笑顔の敬老会

9月18日(月・祝)、ささやかな敬老の日のお祝いをいたしました。午前中はフロアごとに輪投げゲームを開催。上位者には「とくしまるお買い物券」という賞品がもらえる聞き、みんな真剣に取り組まれました。

お昼には握り寿司と山菜そば、里芋の小鉢にデザートは柿、という秋らしい献立を楽しんでいただき、しばし休憩。午後からの花束贈呈式には今年97歳になられる入所者様が代表として、元気に笑顔で花束を受け取って下さいました。

そのあと、昔の歌謡曲や唱歌を歌ったり職員と一緒に振り付け付きの歌を楽しまれ、おやつは紅白まんじゅうもほとんどの方がべろりと完食。この日一日を、元気に笑顔で過ごしていただくことが出来ました。



秋夕をおごそかに

韓国の重要な名節である「秋夕(チュソク)」。古くから韓国で行われている伝統行事で、一年の農作業を終える収穫の頃、豊作を祈念し先祖に感謝をする日とされています。毎年旧暦の8月15日にあたる日と決まっており、今年9月29日(金)に執り行われました。



秋夕に欠かせないお餅のソンプジョンをはじめ、お酒やご馳走が並べられた茶礼床の前にお一人ずつ進んでいた、順に拝礼していただきました。

生け花教室も再開

生け花教室が再開しました。ボランティアの中島榮美さん、山本朝子さんのご厚意のおかげで、簡単だけれども本格的な生け花教室です。利用者の皆さん、とても楽しそうに一つ一つお花を生けていらっしゃいました。



生け花は一見易しそうに見えますが、やってみるとこれがまた結構難しいのです。同じお花を生けていても、利用者さんそれぞれに全然違う出来栄になるのには驚きです。中島さん、山本さん、大変な準備・用意をありがとうございます。



利用者さんがランウェイを闊歩!



9月18日の敬老の日、4年ぶりにファッションショーが開催されました。参加予定人数より大幅に増えた利用者さんの皆さんは、最初は嫌がっていたはずなのに、レツドカーペットの上を歩いたとたん、豹変しました! 最高に楽しそうにランウェイを闊歩していらっしゃいました。東京オンヌリ教会の皆さんが、ボランティアとして26名も協力してくださり、ヘアメイクに応援に、大活躍してくれました。ありがとうございます。

さん、最初は嫌がっていたはずなのに、レツドカーペットの上を歩いたとたん、豹変しました! 最高に楽しそうにランウェイを闊歩していらっしゃいました。東京オンヌリ教会の皆さんが、ボランティアとして26名も協力してくださり、ヘアメイクに応援に、大活躍してくれました。ありがとうございます。

東京



神戸



真野ふれあい盆踊りに参加

8月6日地域行事の真野ふれあい盆踊りに参加しました。故郷の家からはチヂミの屋台を出しました。ニラチヂミとキムチチヂミはおかげさまで大盛況、完売御礼でした。

参加されたご利用者はチヂミに舌鼓を打ち盆踊りを楽しまれていました。中には偶然ご家族や親戚、昔の友達に会い、懐かしさから涙を流され再会を喜ばれる方もいました。



フリーマーケットに出店

連日の猛暑も一段落し秋風が吹き始めた10月1日(日) 12時~18時半。あいにくの曇天模様でしたが神戸三宮で開催されたフリーマーケットに故郷の家・神戸として出店させて頂きました。

こころの家族の支援者より頂いた婦人服や紳士靴に加え、法人関連書籍、職員手作りのバッグや財布等を販売しました。大変好評頂き、特にメイド・イン・ジャパン(長田 製の紳士靴が外国の方から好評で大量販売に繋がりました(ネパール人のハンサムお兄さん、友達も呼んでくれて有難うございました!))。

今回、フリーマーケットに出店させて頂き、職員の絆がより一層深まったと共に、買って頂いた方や商品を見に来られた方に故郷の家のパンフレットを渡し、故郷の家を知って頂く良い機会にもなつたと感じています。ご協力ありがとうございました。



ちいさな芽

こころの家族のルーツ、韓国木浦共生園やその姉妹施設の近況をお伝えします

共生園 (養護施設)

栄山江を船で行く幸せな旅

「2023 全羅南道 幸せな旅支援事業」を木浦市がご支援くださり、共生園の児童32名と職員9名が参加して、楽しい思い出を作りました。

栄山江流域の古代古墳文化の中心である国立羅州博物館を見てから、昔の木船をそのまま再現した黄布帆船に乗って川を上り、素敵な景色を眺めました。

「豊かな味と粋のふるさと全羅南道」の背景を探り、羅州・霊岩地域の痕跡を辿って歴史を知る有意義で幸せな旅でした。



共生再活院 (知的障害者施設)

地域社会の皆さんと楽しむサマーフェスティバル



ワンネス教会の青年の皆さんとご一緒にしたサマーフェスティバルはとても楽しい幸せな一日でした。

1部では信仰、希望、愛を持って、礼拝や祈りの生活に励もうというお話を聞き、新たな決意をしました。2部では障害者の目線に合わせたカラフルな風船わたし、絵合わせカード、司会者とのじゃんけんゲームなど、簡単で面白い活動が楽しかったです。

木浦障害者療養院 (重度障害者施設)

キム・イエスクさんの還暦祝い

木浦障害者療養院の家族になって長年共に過ごしてこられたキム・イエスクさんの61回目の誕生日を迎え、還暦のお祝い会を開きました。

利用者さんと職員の心がこもったたくさんのプレゼントやイエスクさんの顔に似たきれいな花飾り、おいしいお茶菓子も準備して、みんなでお祝いしました。ご健康とお幸せを願うみんなの気持ちや応援に、イエスクさんも優しい微笑みで応えてくれました。いつまでもお元気で幸せでありますように！





皆様のご支援に感謝申し上げます



2023年8月～2023年9月 寄付合計 4,293,599円

堺	2,072,000円	京都	415,000円
大阪	1,500円	東京	110,000円
神戸	54,599円	法人	1,640,500円

2023年8月～2023年9月の寄付者 (敬称略)

浅野 和子	星田 正雄	(株)スポーツ寿苑 代表取締役 鄭 貞子	故郷の家・神戸募金箱	坂入 高雄	遠藤 富美子
河津 章夫	金 慶光	藤原 一臣	太田 清孝	単立キリスト教八街グレイス教会	里見 知子
多田出 佳代子	ペン株式会社	瀧澤 織衣	株式会社ヤマエンタープライズ 代表取締役 池 正淑	申 鉉錫	佐竹 敬
匿名希望者	金氏高麗人参株式会社	多胡 元喜	枝川 愛の教会	藤原 興	伊藤 忠彦
佐藤 友美	金山 委智夫	田 美子	女性経済新聞	大澤 勝哉	宮原 智文
光州国際高等学校	(有)テラヲ貸物店	巨済大学校 社会福祉学科	田内 文枝	松本 碩業 有限会社	(株)グローバル 代表取締役 川島 忠義
高神大学校 社会福祉学科	李 善恵	田内 基	観寺 伊津美	儀貝 英雄	(株)ワイ・ジェイ・ビー 代表取締役 柳川 博
本河 みぎわ	一般社団法人日韓伝統文化絆の会 代表理事 尹 道心	マリアの御心会	岡 真由美	松井 政男	
Woo song大学校	丸山 汎	佐藤 美津子	青木 茂	石田 純郎	
下野 清枝	故郷の家・京都募金箱	松本 光恵	オートプロ島田 島田 隆男	河内 恒男	
田中 富美子	田内 緑	趙 鳳濟	「ハートサービス運動」募金箱	河内 宣子	
李 守陳				松下 令子	
中村 啓子				板橋 洋一	
藤田 裕之				峯岸 義則	

2023年8月～2023年9月の寄贈者 (敬称略。すべての方のお名前を記しているわけではありません。ご了承ください)

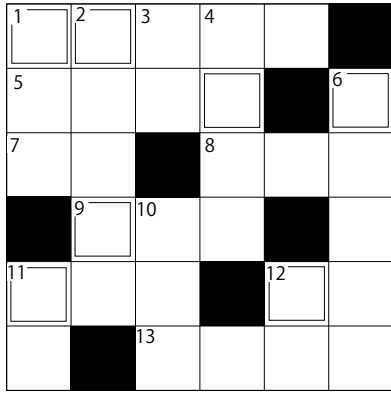
■故郷の家(堺) 大井 敏子ご家族 森 繁雄ご家族 中村 志奈子ご家族 小路 ヒサエご家族 武吉 文子ご家族 山崎 世津子ご家族 佐々木 アイコご家族 玉川 芳明ご家族 高木 英宏ご家族 澤田 和代ご家族 宮崎 泰ご家族 池田 啓順ご家族 今吉 フクエご家族 加藤 憲司ご家族	国際ソロプチミスト 大阪・南陵 永山歯科 永山成大 あゆみ介護センター 片山 誠治 小田 ヒターナ ■故郷の家・神戸 多聞 みゑ子ご家族 浅井 艶子ご家族 成 奉順ご家族 梶田 千香 鶴峠 江美子 松永 照代ご家族 氷室 悦子ご家族	瀬川 マツご家族 坂井 シゲノご家族 金谷 小香ご家族 嶺山 廣慶ご家族 中村 貞順ご家族 大島 順子ご家族 平安祭典 ライズメディコ(株) 任勢 美代子ご家族 岩本 文子ご家族 ■故郷の家・京都 宋原 順粉ご家族 米田 眞理子理事 鄭 英道ご家族	ワタキューセイモア 安田 節子ご家族 松ノ木保育園 南 奇順ご家族 南松ノ木町内会 利川 貞子ご家族 及川 忠孝 河本 和子ご家族 池田 邦子 嘉門 和美ご家族 (株)朱常分店 金田 公子ご家族 (株)りそな銀行 田花 安子ご家族 羽谷 守子ご家族	林 順子ご家族 文 在良ご家族 栗原 美代子ご家族 柳 祝男ご家族 梅林 禮子ご家族 春山 美都子ご家族 野田 頼子ご家族 金 宝熙ご家族 石井 和實ご家族 ■故郷の家・東京 新井 利子ご家族 仁保 とみ子ご家族 金 淑貞ご家族 寺澤 ヒサエご家族	嶋田 誠子ご家族 桂 祐幸ご家族 小菅 美千子ご家族 金子 和子ご家族 南 公恵ご家族 小川 昭子ご家族 安 江一ご家族 東京東部教会 ダイバーシティ 村上 里子
---	---	--	--	--	--

2023年6月～2023年7月の来訪者・ボランティア (敬称略)

■故郷の家(堺) 松本 光恵 小田 ヒターナ ■故郷の家・神戸	サランの会 関 京子 大藪 共基 戸田 和子 今堀 美子	山崎 和美 ■故郷の家・京都 尹 道心 懐メロ聴くの会	傾聴ボランティア 京都PANA-ALC 1名 神戸めぐみ教会	■故郷の家・東京 韓国恩恵教会15名 国際青年センター 13名 韓国福祉環境デザ	イン研究所3名 オンヌリ教会26名 中島 榮美
--	--	---	---	---	-------------------------------

◆ クロスワードパズル ◆

※前回の答えは「マイナンバーカード」でした。
【ヒント＝気候もよくなつて…】
 二重マスの文字を組み合わせて
 できる言葉を答えてください。



- ↓ **タテのカギ**
- ① 会見。質問した
くて拳手しても指名
されなかつたり？
 - ② 旅行者のこと。
 - ③ ♪ の葉ざらざら
 - ④ ダイニング、
ークロス。
 - ⑤ ウクライナの西隣に
ある国。
 - ⑥ 韓国といえはこの漬
物。
 - ⑦ 「恩を——で返す」。
 - ⑧ ヒトの頭蓋内にあり
ます

→ **ヨコのカギ**

- ① 最近は——より「カフェ」が人気？
- ② 沖縄では屋根の上などによく見られます。
- ③ 武器のひとつ。長い柄の先に刃がついています。
- ④ 「青」を英語で。
- ⑤ 技能のこと。
- ⑥ 手塚治虫作「鉄腕——」。
- ⑦ フランス語で「はい」は「ウイ」、「いいえ」は？
- ⑧ 身の回りの家具や道具などのこと。——品。

◆ **プレゼント** ◆



正解者の中から3
名さまに、韓国の伝
統的な模様や服装が
デザインされたかわ
いブックマーク(し
おり)をプレゼント。

応募は、クロスワ
ードパズルの答、住所・

氏名・電話番号をお書きのうえ、はがきなら〒590-0142
堺市南区榎尾3360-12「故郷の家・クイズ係」へ、メール
での応募はnews@kokorono.or.jpへどうぞ。12月10日
締め切り。

本誌をお読みにになった感想、メッセージなどもどうぞお
書き添えください。お待ちしております！

**お気軽に
お問い合わせ
ください。**

故郷の家のご利用相談や
寄付。困っている高齢者、
留学生、外国籍の方も

- **故郷の家・堺** 巽耕作 (施設長)
大阪府堺市南区榎尾3360-12 TEL 072-271-0881
ブログ <http://kokyosakai.blog40.fc2.com/>
- **故郷の家・大阪** 田中久美子 (主任ケアマネ)
大阪府大阪市生野区中川2-4-26 TEL 06-6753-6580
ブログ <http://kogyoosaka.blog79.fc2.com/>
- **故郷の家・神戸** 松下良平 (施設長)
兵庫県神戸市長田区東尻池町7-4-21 TEL 078-651-1555
ブログ <http://kokyokobe.blog40.fc2.com/>

- **故郷の家・京都** 藤原一臣 (特養施設長)、金滋榮 (ケアハウス施設長)
京都府京都市南区東九条南松ノ木町47 TEL 075-691-4448
ブログ <http://kokyokiyoto.blog41.fc2.com/>
- **故郷の家・東京** 朴正米 (特養施設長)、塩川優子 (ケアハウス施設長)
東京都江東区塩浜1-4-48 TEL 03-3644-0555
ブログ <http://kokyotokyo5.blog.fc2.com/>

共に希望に生きる

人は、誰しも懐かしい思い出に満ちたふるさとをもっている。
 ふるさとは、生まれ育った所であると同時に「帰る」所であろう。
 人生の喜びと悲しみ、栄光と重荷を背負って帰り着くところが
 ふるさどであれば、なんと素晴らしいことではないか。
 そこでは、経験を分かち合い、共に希望をもって生きることができる。
 (阿部志郎・神奈川県立保健福祉大学名誉学長)

こころの家族のサポーターになってください

- A) 愛の寄付金 自由な金額
- B) 賛助会員 月 1,000 円 (年 1 万 2 千円)
- C) 奨学金会員 (留学生や孤児・障害児支援) 月 5,000 円 (年 6 万円)
- D) 1%会員 (所得、売上、祝儀、遺産、感謝)
- E) 1坪会員 (施設の新築・改築や環境改善支援) 30 万円

ご送金の方法

郵便振替 □座番号：00940-0-329280
 加入者名：社会福祉法人こころの家族
 銀行振込 銀行名：三菱UFJ銀行
 支店名：光明池支店 普通 1052623
 □座名義：社会福祉法人こころの家族

寄付申込書

年 月 日

*この申込書を FAX でお送りいただく下記施設まで郵送を
 お願いします。

FAX 072-271-5474 または 03-3644-0556

ふりがな
お名前

連絡先 〒

TEL

(自宅・会社)

FAX

ご寄付内容 ※具体的な支援先や事業名があれば、口数や金額とともに
 記入してください。

- 例1：●(B・賛助会員)として(2)口、(年2万4千)円を寄付します。
- 例2：●(E・1坪会員・堺)として(1)口、(35万)円を寄付します。

●()として()口、()円を寄付します。



**本法人は統一教会とは
関係ありません**